

広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ
HONBETSU

2016
July
No.1053

7月

表紙 4,391人が参加した
チャレンジデー2016



Pick up

- ✿ 頑張っています! 本別高校
- ✿ 本別町の空き家306件 官民共同で支援
- ✿ 本別空襲の日

頑張っています！本別高校

6月3日、本別町、本別町教育委員会、本別高校の教育を考える会が「本別高校の支援の輪を広げる町民の集い」を開催し、本別高校の生徒や先生の頑張る姿が紹介されました。本別町としても積極的に情報発信し、本別高校の「いま」を町民の皆さんにお伝えします。



本別高校はこんな学校

本別高校は昭和17年に旧制中学校として開校した歴史と伝統のある学校です。「創意実践」の校訓のもと、「一人一人が豊かな心を持ち、いきいきと学びつづけるために」を目標とし、教師一丸となって「社会で自立できる生徒」を育成する教育活動を展開しています。近年の生徒数減少の中、平成28年度入学生は33人で1年生のみ1学級となりました。

多様な進路に向き合う

本校では生徒一人ひとりに向き合った指導を展開しており、大学進学・専門学校進学・就職希望と多様な進路希望を持つ生徒に対し、きめ細やかな対応をして効果を上げています。これまでも、さまざまな研究指定事業を実施し、現在は文部科学省の「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育に係る研究指定」と北海道教育委員会の「北海道高等学校学力向上実践事業（数学）」に取り組んでいます。また、「本別高校の教育を考える会」からの支援や意見交換など、同校の教育については地域と連携して進めています。

★部活動等 1生徒会、11部活動、6同好会 ほか

部活動	野球部、弓道部、剣道部、サッカー部、陸上競技部、バレーボール部、バスケットボール部、テニス部、バドミントン部、吹奏楽部、美術部
同好会 ほか	ボランティアクラブ、家庭科同好会、茶道同好会、新聞局、図書局、放送局

※部活動等実加入率 87.2%（平成28年5月20日現在）
 ◎全国大会や全道大会に出場（出場予定）
 弓道部、剣道部、吹奏楽部（十勝合同オーケストラ）
 ※水泳やスケートも全国・全道大会に出場しています



全道高体連大会弓道競技で優勝し、インターハイに出場する佐藤安純さん（3年）

★主な教育活動

生徒一人ひとりに進路指導教員を配置

本別高校は、学力向上と進路実現に向けて、教科・科目については進学・就職ともに、さまざまな進路希望に対応できるよう設定しています。また、担任のほかにも進路指導を行う教員を生徒一人ひとりに配置するなど、個別指導を充実。公開授業週間の設定や研修への参加により教員の資質向上のほか、北海道学力向上実践事業研究事業（数学ベーシックモデル、平成28～30年度）の指定を受けるなど、授業改善の取り組みを実施しています。

きめ細やかな生徒指導

毎月、個別に面談を行い生徒の状況を把握（いじめ防止）するほか、携帯電話安全講話や交通安全教室・バイク実技指導を実施や、教育相談体制の整備を図るなど、安心・安全な学校に向けて取り組んでいます。進路指導では、進路講座や進路保護者学習会の実施により、生徒や保護者へ進路意識を高めています。また、外部講師の講話やインターンシップを実施し、進学先や就職先の情報収集に積極的に取り組んでいます。

★進路実績（過去5年）

	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度
進学	19(0)人	45(5)人	44(3)人	42(3)人	55(4)人
就職	16人	25人	16人	23人	19人
その他	1人	0人	4人	1人	0人
計	36人	70人	64人	66人	74人

※進学の（ ）内は国公立大学合格数（現役）

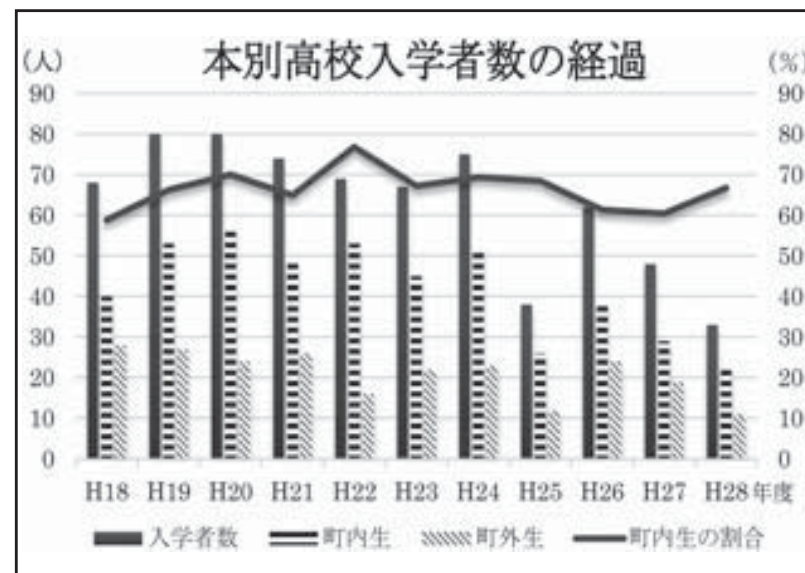


平成28年度、道内外50の大学、短期大学から指定校推薦を受けています

- (道内) 北海道情報大学、北海学園大学、苫小牧駒沢大学、北翔大学、千歳科学技術大学、北海道科学大学、旭川大学、酪農学園大学、北星学園大学、道都大学、札幌学院大学、札幌大学、札幌国際大学、北海道医療大学、東海大学（札幌キャンパス）、北翔大学短期大学部、帯広大谷短期大学、拓殖大学北海道短期大学、北海道武蔵女子短期大学、光塩学園女子短期大学、北海道科学大学短期大学部、札幌大学女子短期大学部、札幌国際大学短期大学部、釧路短期大学、北星学園短期大学部、函館大谷短期大学、國學院大学北海道短期大学部
- (道外) 千葉商科大学、中央学院大学、東京工芸大学、サイバー大学、城西大学、八戸工業大学、山梨学院大学、太成学院大学、北陸大学、静岡産業大学、嘉悦大学、川村学園女子大学、関東学院大学、立教大学、愛知文教大学、東海大学、横浜美術大学、愛知工業大学、東亜大学、埼玉女子短期大学、東京経営短期大学、帝京短期大学、城西短期大学

北海道高校配置計画案 29年度は2学級維持

近年、少子化の影響で中学卒業生数が大幅に減少している状況を踏まえ、北海道教育委員会では「新たな高校教育に関する指針」のなかで、全日制課程は1学年4～8学級を望ましい学校規模とし、地域キャンパス校の導入や総合学科の設置など再編整備を進めるとしています。本別高校では平成28年度、2学級（定員80人）を募集していましたが、入試の結果、新入生が33人とどまり、今年の1学年については1学級となりました。このような状況の中、同委員会は6月7日、平成29年度～31年度の公立高校配置計画案を発表し、本別高校は中卒者数の状況等を総合的に判断され、平成29年度は2学級80人の入学者の募集が行われることとなりました。今後、同委員会は9月に平成29年度から平成31年度までの公立高校配置計画を策定するとともに、平成32年度から4年間の方向性を示す予定です。



★生徒の在籍数 141人

学年	人数合計	内 訳	
		男子	女子
1年	33人	12人	21人
2年	47人	20人	27人
3年	61人	32人	29人
合計	141人	64人	77人

★教職員数 22人

校長	1人
教頭	1人
教諭	15人
養護教諭	1人
事務職員	4人

※教諭の平均年齢 42.1歳
平成28年5月20日現在

学校教育目標
 一人一人が豊かな心を持ち、いきいきと学びつづけるために
 知性を磨き、創造的に実践する人間を育てる
 情操を高め、他を深く思いやる人間を育てる
 心身を鍛え、たくましく生きる人間を育てる

校訓「創意実践」



集いに参加した本別高校生徒14人。来場者250人とともに、本高生を歌いました

それぞれの立場で支援を

本別高校の教育を考える会
我妻勇次 会長



「本別高校の存続は、本別町の存続でもあり、学校がなくなってしまうと、人、家族が動いてしまいます。福祉の町を支えるためにも、町民一人ひとりがそれぞれの立場で支援の輪を広げていただきたいと思います。来春、より多くの入学生を迎え、2間口確保を報告したいと思いますので、皆様のご協力をお願いします」。

本別高校を残すために

本別町役場
北山敦裕 さん
(平成17年度卒業)



「大学進学を目指していた高校生時代、先生には本当に手厚いサポートをしていただき、少人数だからこそ、気軽にわからないところを質問できました。これは、進学校や大人数の学習環境にはない大きなメリットだと思います。魅力ある本別高校を残していくためにも、皆さんで支え合うことが大切だと考えます」。

先生方に感謝

本別町役場
西村航貴 さん
(平成27年度卒業)



「本別高校在学中、先生は忙しい中、私の進路実現のため、相談に乗ってもらうなどとても親身になって協力をしていただきました。試験や不得意科目についてのアドバイスを毎日もらい、試験対策の問題を用意し、面接資料をそろえるなど、支えていただいた先生方に本当に感謝しています」。

本別高校の魅力

本別高校生徒会長
山西麻由稀 さん
(3年)



「本別高校は、本高祭など、学校全体で団結して行事に取り組むところが魅力であり、進学・就職実現についても個々の進路に沿ったサポートをしていただいています。地元には高校があると、自宅から通学できるため、誰よりも親身に話を聞いてくれる親と暮らせるので毎日頑張ることができます」。

本別高校の取り組み

本別高校
佐藤 渉 校長



学校概要のほか、同校が文部科学省などから指定を受けた8つの研究事業や過去5年間の卒業生の就職、進学の状況等について報告。道内外50の大学、短大から指定校推薦を受けていることを紹介し、「本別高校は非常に充実した学習環境であり、生徒の進学・就職においても、十分な配慮を行っています」。

本別高校の現状

本別町教育委員会
中野博文 教育長



北海道教育委員会の指針による高校の再編整備の概要について説明し、「なんと少しでも平成29年度入学生は41人以上2学級確保を実現したい」と述べ、児童・生徒や保護者へ精力的に入学者確保に向けた活動を行う予定であると語りました。「全町民一丸となった特段の支援をお願いいたします」。

「本高生」を合唱

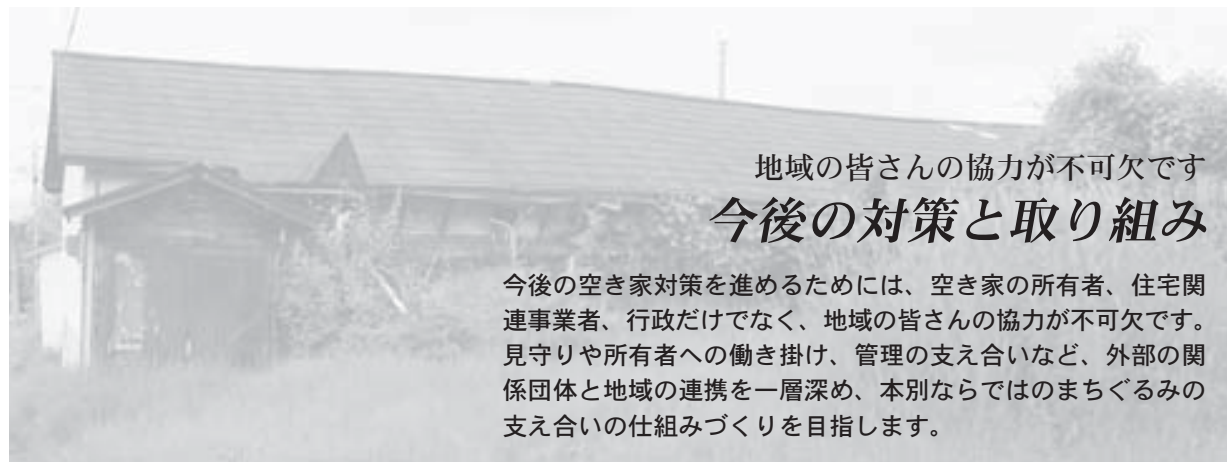
「本高生」は、昭和31年に校歌が出来上がるまで、長い間先輩たちが歌い続けてきた歌で、本別高校生徒たちの心意気を伝える大切な歌です。集いでは、懐かしいメロディとともに全員で合唱し、会場が熱気に包まれました。



2016. 6. 3

本別高校の支援の輪を広げる町民の集い 存続への思い、ひとつに。

6月3日に町体育館中競技室で開催された、本別高校の支援の輪を広げる町民の集いには、町内小・中・高校生の保護者や一般など約250人が参加しました。高橋正夫町長が、初めのあいさつで「伝統ある本別高校存続のため、皆さんの支援が必要です」と会場へ呼び掛け、続いて本別高校佐藤渉校長や同校生徒、卒業生らが、取り組みや学校の魅力、感謝の思いなどを語り、本別高校存続への思いをひとつにしました。



地域の皆さんの協力が不可欠です 今後の対策と取り組み

今後の空き家対策を進めるためには、空き家の所有者、住宅関連事業者、行政だけでなく、地域の皆さんの協力が不可欠です。見守りや所有者への働き掛け、管理の支え合いなど、外部の関係団体と地域の連携を一層深め、本別ならではのまちぐるみの支え合いの仕組みづくりを目指します。

見守りと家財・遺品整理のサービスをつくります
社会福祉協議会と町内事業者の連携により、一人暮らしの人の安否確認と死後の遺品整理、空き家に置いたままとなっている家財整理に関するサービスをつくりたい。

老朽空き家の解体等に補助制度を検討
空き家は所有者自らが適切に管理することが原則ですが、経済的な事情や遠方に住んでいるため、状況を把握していないなどの場合が考えられるため、町では、空き家の予防、適正管理の促進、行政指導等の措置のほか、老朽化した空き家の解体等に補助制度を検討します。

特定空家等に対する措置
管理不全で近隣に著しい影響を及ぼしている空家等については、町が作成した判定基準により、特定空家等として認定するかどうかの検討を進めます。これまでの調査結果では、特定空家等に該当する家屋などはありませんが、認定は、所有者の特定や意向確認後に行います。

住宅確保が困難な人の住み替えを支援
高齢期で住宅確保が困難な人の暮らしを安定させるため、社協のあんしんサポートセンターと協力しながら、住み替えを積極的に支援します。さらに、住み替え後の生活についても金銭管理や見守りなど、「住まいの確保」と「生活支援」を一体的に提供する体制づくりを進めます。

継続的に空き家状況を調査します
空き家利活用のため、さらなる詳細調査を継続して行うとともに、住み替え希望のある人の住宅需要のタイプや希望の立地、家賃、間取り等の諸条件を把握します。

「貸したい」「借りたい」をつなぎます
町内に住まいを求める多様なニーズに応えるため、町の空き家情報バンクを充実させ、バンク内で「貸したい」「借りたい」をつなぐ仕組みを構築します。

空き家に関する相談窓口 建設水道課 ☎ 22-8122

建築物（管理不全状態な建物）：建設水道課建築担当
建築物以外の周辺環境：住民課環境生活担当 ☎ 22-8128
移住・定住・空き家バンク：企画振興課地方創生推進室 ☎ 22-8121
居住支援協議会（空き家対策・住み替え等）：総合ケアセンター高齢者福祉担当 ☎ 22-8520

相談への対応
町では、役場内関係課に寄せられる空き家の適正管理や利活用に関する相談・要望・苦情に対して、より一層連携しながら情報共有に取り組みます。

居住支援協議会 これからの活動

住まいに関するセミナー、相談会を開催します！

居住支援協議会では、今年度中に住まいに関するセミナー、相談会の開催を予定しています。協議会の構成団体メンバーが持つ専門性を発揮するとともに、住民の皆さんが抱えている悩みや困りごとに対応し、より良い生活環境に関する情報を提供できればと考えています。また、「住宅」と「福祉」に関する団体のネットワーク化および連携による地域包括ケアシステムの向上も目指しています。

問い合わせ
総合ケアセンター
高齢者福祉担当
☎ 22-8520

本別町の空き家306件 官民共同の支援で、貸したい・借りたいを結びます

町では、平成26年から町内の空き家について、管理状態や所有者意向等を調査し、町内空き家の課題を把握してきました。この結果、本別町内では306件が空き家と推定され、このうち外観調査から管理に問題がなく、利活用の可能性がある空き家は、120件程度となっています。全国的にも管理不全な空き家が増加しており、空き家を地域の資源として活用することで、住宅確保が困難な人や移住・定住促進など、さまざまな「住まい」の確保に結び付けていく取り組みが期待されています。



6月1日に総合ケアセンターで行われた本別町居住支援協議会総会には、委員とオブザーバー、町関係課職員が集結。法律や住宅に関連する多方面の専門家が一体となり、支援体制が検討されていきます

2月に全国の町で初の居住支援協議会を設立
本別町居住支援協議会（鹿島豊隆会長）は、平成28年2月に全国の町で初めて設立されたもので、町内の建築や不動産関係団体、本別町社会福祉協議会、法律事務所など7団体と、専門的な助言を得るための外部有識者6団体、町関係課職員で構成しています。

本別町空家等対策計画（平成28-32年度）を策定
この計画は、本町ならではのまちぐるみの支え合いの仕組みづくりと、住民が安全・安心して継続的に暮らせる良好な住環境と住まいの確保を目指して策定しています。計画の詳細は町ホームページをご覧ください。

3度の調査から見えた本別町の空き家の課題
町では、町内の空き家について3度の調査を行っており、台帳作成や管理状況のほか、利活用についての意向アンケートも実施しています。これらの調査から見えてきた、本別町の空き家の課題は次の通りです。

本別町の空き家の課題

- ・空き家の所有者は85歳以上の高齢者が最も多く、維持管理が困難
- ・改修工事の費用や家財の処分に困っている人が多い
- ・価格や賃料、間取り、立地等について需要と供給のミスマッチがある
- ・空き家を適切に管理する意識が高くない
- ・利活用や除却をしたくても、情報や制度が少ない

課題を分析し、持続的な体制をつくります
居住支援協議会では、これらの課題から、物件と市場のマッチング、改修・維持管理費用の負担軽減、制度周知方法の検討が必要と考えます。協議会構成団体の専門家の協力のもと、窓口で寄せられるさまざまな問題について協議し、持続的な相談体制等の構築を目指します。

本別空襲の日

この日を忘れない
7・15

太平洋戦争末期の1945（昭和20）年7月15日朝、本別町は米軍機による空襲を受けました。三日三晩燃え続けた町は焦土と化し、40人が死亡、279戸が全焼、被災者総数は1915人。その被害は北海道で函館、室蘭、根室、釧路に次ぐ5番目、十勝では最大といわれています。しかし、深い悲しみから立ち上がった町の人々は戦災復興に全力を注ぎ、その後の本別町の発展を支えました。

平和を語りつぐまち 本別

戦後71年。今や町内に戦争の痕跡を見つけるのも難しくなりました。私たち本別町民は空襲の歴史を忘れず、悲惨な戦争を二度と繰り返すことのないよう、後世に伝えていかなければなりません。本別空襲のあった7月15日には、空襲で犠牲になられた人や、数々の戦役で亡くなられた人のご冥福をお祈りし、恒久平和を願うため、「本別町戦没者・戦災死没者追悼式」が行われています。そして、平和の尊さを語りつぐための事業が開催されます。



空襲を受け3分の2が焼失した本別市街

関連事業 公開座談会 「本別空襲を伝える会」

入場無料

本別空襲の歴史を多くの人へ、未来へと伝え残すために、71年前に空襲被害を受けた現・本別高校で、空襲体験者と若い世代が語りあう座談会を開きます。どなたでも参加できますので、どうぞご来場ください。



空襲で殉職した山内三郎 教頭

とき **7月15日(金)**
午後2時～午後3時

ところ **本別高校体育館**
(本別町弥生町 ☎22-2052)

内容
・語りべによる本別空襲のお話
・中高生の代表者による意見発表ほか

問い合わせ 歴史民俗資料館 ☎22-2141(内線410) または 図書館 ☎22-5112

資料館企画展 「7月15日本別空襲を伝える ～おばあちゃんの戦後～」

入場無料

今年のテーマは、戦中戦後の混乱期を生き抜いた「女性の目から見た戦争」です。家族を守るために闘った女性たちの生きざまを伝えます。ぜひご来場ください。



被弾したタンス

期間 **7月1日(金)～8月31日(水)**

※月曜日は休館

開館時間 火～金曜日 午前9時～午後4時
土・日・8/11 午前9時～午後3時

ところ **歴史民俗資料館**

本別町戦没者・戦災死没者追悼式

とき **7月15日(金) 午前10時**

ところ **ふれあい交流館(向陽町)**

本別町では、日清・日露・第二次世界大戦の戦役で299人が戦死され、本別空襲において40人の尊い命が奪われています。

追悼式では、黙とう、追悼のことば、献花などによって、犠牲者のご冥福をお祈りしますので、多くの町民の皆さんの参加をお願いします。また、黙とうを呼び掛けるサイレンが午前10時05分ころに吹鳴されますので、一緒に黙とういただきますよう、重ねてお願い申し上げます。



昨年の追悼式

問い合わせ 保健福祉課社会福祉担当(総合ケアセンター内) ☎22-8520

国民年金

国民年金保険料免除・納付猶予制度について

その1/11

収入の減少や失業等により国民年金保険料を納めることが難しいとき、申請することによって保険料の納付が「免除」または「猶予」される制度があります。この制度を活用することで、将来の老齢基礎年金受給権の確保だけでなく、けがや病気などにより障がいを負った、または死亡した場合に障害年金や遺族年金の受給資格を確保することができます。

① 免除制度

本人、配偶者、世帯主それぞれの前年所得(過去の年度分については、前々年所得等)が一定額以下の場合や、失業等の理由がある場合、申請により保険料の納付が全額または一部免除されます。

② 納付猶予制度

50歳未満の人(学生を除く)で本人、配偶者それぞれの前年等の所得が一定額以下の場合、申請により保険料の納付が猶予されます。

【全額免除または納付猶予となる所得の目安】

(扶養親族の数+1)×35万円+22万円
で計算した額以下である場合

【申請方法】

「年金手帳」、「印鑑」、失業を理由に申請する人は「離職票等」を持参の上、住民課戸籍年金担当窓口で申請してください。

【注意】

- ①、②の申請は、申込月から2年1か月前までさかのぼって手続きすることができます。
- ①の免除を受けた期間は、将来、老齢基礎年金を受け取る際に保険料を納付した場合の1/2の金額を受け取れます(国庫負担分が反映されます)。
- ②の納付猶予を受けた期間は年金額には反映されません。
- 一部免除が承認された場合、減額された保険料を納めないで保険料未納と同じ扱いになりますので、忘れずに納付しましょう。
- ②の申請は、平成28年6月以前の期間は、30歳未満であった期間が対象です。



詳しくは

住民課戸籍年金担当へ

☎22-8128

日本年金機構のホームページは

<http://www.nenkin.go.jp/>

起業家等支援事業

成果発表会



町起業家等支援要綱を活用して、起業や新商品開発に携わった個人や企業の成果発表会が6月2日、本別コミュニティセンターで開かれました。

夢実現に向けて、起業家4件、新商品開発3件を認定

平成24年にスタートし4年を経過した本事業は、本町における起業、または新商品開発等を促進することを目的としたもので、平成27年度は、4回の事業計画審査会（委員長＝砂原勝副町長）で申請のあった起業家等支援4件、新商品等開発3件の全てを認定しました。

発表会では、高橋正夫本別町長のあいさつの後、平成27年度の採択順で苦労話や今後の抱負、支援への感謝の言葉が述べられたほか、平成26年度および平成25年度に採択された事業者から現在の状況を報告。続いて、事業計画審査委員から「それぞれの事業が着実に前進されている」「応援している、頑張ってほしい」などの講評がありました。

発表会終了後、懇親会が開かれ、参加者は新商品の試食などをしながら同事業に関して意見を交換しました。

平成27年度 起業家等支援事業



北栄とりせい（北2丁目）
飲食店



本別ひまわり基金法律事務所（南1丁目）
法律事務所



岡本精肉店（勇足元町）
小売業（移動販売）



北海コインランドリー（上本別）
洗濯・理容・美容・浴場業

平成27年度 新商品等開発支援事業



本別町農業協同組合
だいずくん（燻製大豆）



NPO法人銀河ほんべつ
ほんべつ大福（大福土産品）



本別発 豆ではりきる母さんの会
黒豆スモーク（黒豆煮豆）（左）



農福商連携推進会議委員の皆さん。本別農協職員や調理の専門家も委員に構成されています



同会議副会長のほんべつフリーライフ
羽賀健一副理事。町内で実際に活動している唯一のジョブコーチです



5月26日に行われたトマト苗の定植作業

農福商連携事業がスタート
障がいのある人の新たな就労の創出に向けて

障がいがあっても、
本別で働き、
本別で安心して
暮らしていくために

この希望を叶えるための第一歩として、本別町の農業・福祉・商業分野が一体となった農福商連携事業「農作物栽培実証実験」が5月26日からスタートしています。地域の農業者の協力のもと、障がいのある人たちが農作物を栽培し、収穫・加工した物を販売する流れを確立するため、町では6月8日、農福商連携推進会議（新津和也会長）を設置しました。障がいのある人の新たな就労の場確保に向けた、さまざまな取り組みを行います。

これまで本別町出身の高等養護学校卒業生は、本別町に帰ることを希望していても、働く場が少ないため、帯広近郊に就職することが多くなっていました。しかし、近年、就労機会の確保を進めたことで、平成27年度同学校卒業の本町出身者4人全員が、本別に戻って生活し、働いています。町では、これらの状況から、就労の場をより多く創設し、障がいを持つ本人にとって、将来働くという目標が見え、希望を叶えることができるシステム作りが必要と考えるようになりました。現在取り組んでいるトマト栽培は、実施を特定非営利法人ほんべつフリーライフ（三井誠子代表理事）に委託しており、町内2件の農業者にご協力いただいています。

障がいのある人は、手作業などの人手が必要な仕事を得意としており、熱心に取り組む姿勢が多く見られます。できること、できないことを理解し、誰もが仕事のしやすい環境を作るためには、人材育成も重要項目と捉え、町では、障がいのある人を雇用する事業主や働く環境を支援するアドバイザー「ジョブコー

町では、農作物の栽培だけでなく、障がいのある人の多様な就労の場を探したいと考えています。「簡単な作業だが、手作業でなければできない」「人手があれば、もっとたくさん作ることができると」。このような仕事があれば、ぜひ、総合ケアセンター障がい者福祉担当までご連絡いただきますようお願いいたします。

こんなお仕事
ありませんか？

- 商品のシール貼り
- 草取り、掃除など

「の養成にも力を入れます。多くの雇用が生まれ、利益と給料を得ることを目標に、本別町と本別町農業協同組合（田中敏行代表理事組合長）、ほんべつつつじの園（新津和也施設長）、ほんべつフリーライフがより一層協力し合い、この事業を展開していきます。



保育所30m走

よさこい・2016

綱引き

バラエティレース2016

人間バンパ

ぐるんぐるんグルン

仙美里保育所・仙美里小学校大運動会 6/5

スローガン 「心を1つに栄光のゴールをめざせ！」

心をひとつに



本別中央小学校運動会 6/5

スローガン 「一致団結して勝利へつき進め」



本別競輪

よさこいソーラン

紅白リレー

ひっぱれ 5色のつな!

応援合戦

どんだん ころがせ!

本別夏の陣!

本別中学校体育祭 5/28

スローガン 「^{いただき}頂 ~俺達の挑戦~」



いなばの黒うさぎ

応援合戦

大むかで競走

タイヤスティール

綱引き

選抜リレー

三人四脚リレー

新記録達成!

今年も5月下旬から6月上旬にかけて、町内小中学校グラウンドで運動会・体育祭が開催されました。この日のために一生懸命練習を重ねてきた子供たちは、運動会・体育祭のスローガンの下、個人や団体種目に真剣に取り組み、勝利を目指し健闘。各学校のグラウンドには、応援に訪れた家族や祖父母、子供たちの声援が響き渡り、イベントを盛り上げました。

各学校では、地域の人が参加する競技も用意するなど趣向を凝らした内容に、グラウンドに集まった全ての人が楽しい1日を過ごしました。

地域の一大イベント運動会・体育祭。今年もグラウンドでは幼児から中学生までが元気いっぱい競技に取り組み、たくさん感動が生まれました。

運動会 体育祭 2016



開会式

あか・あお・きいろ なにが出るかな?

新 全校玉入れ

タイヤ奪い

ヒッパレ! ~魔法のじゅうたん

8人9脚

コロコロまるちゃん

勇足保育所・勇足小学校・勇足中学校大運動会 5/28

スローガン 勇足小学校「パワー全開 かけぬけろ 勇小っ子」
勇足中学校「Believe ~信じよう17人の可能性」

住民総参加型 スポーツイベント チャレンジデー2016

人口規模がほぼ同じ自治体同士が運動やスポーツをした住民参加率を競う、住民総参加型スポーツイベント「チャレンジデー2016」（実行委員会主催＝大西光夫実行委員長）が5月26日、町内全域で行われました。

4,391人参加、参加率58.2%、銀メダルを獲得!

今年で6年目の実施となる当日は、朝方に雨が降るあいにくの天気の中、実行委員会や自治会、体育協会などが主催するイベントが実施され、多くの方が運動やスポーツに親しみました。

この結果、本別町では、人口7,542人（2月1日現在）に対し参加者4,391人、住民参加率では、昨年より8.9ポイント少ない58.2%で、銀メダルを獲得しました。対戦相手の長野県喬木村の結果は65.0%で、本別町は惜敗しました。お互いの健闘をたたえ、翌日から1週間、両町村旗を町体育館屋上に掲揚しました。

皆さんも、このイベントをきっかけに、日常生活に運動やスポーツを定期的に取り入れ、健康な心と体を養いましょう。



始めてみよう！太極拳



神居山と諏訪山に登ろう！



錦町自治会
ラジオ体操とクリーンウォーク



学校でもチャレンジデーをPR



今年もやったぞ！ディスコン大会



ふまねっと・ガンパルーン体験会



ショッピングウォーク



今年もやったぞ！ディスコン大会



向陽町ふれあいサロン



ゲートボール大会



バスケットボール体験交流会



バドミントン体験会



両町村の旗を掲揚

元気にかっここ

6月に入り爽やかな季節を迎え、南保育所が6月11日、同保育所グラウンドで、中央保育所が6月18日、清流公園で、本別カトリック幼稚園が6月19日、同幼稚園グラウンドで運動会を開催し、子供たちの元気な声が響き渡りました。

来年はこども園へ移行

この3施設は、平成29年4月から一元化され、就学前の子供たちに教育と保育の一体的な提供を行うとして、幼保連携型認定こども園の開設が予定されているため、現在の敷地で行われる

のは今年で最後となります。子どもたちは活き活きと体を動かして、かけっこや玉入れ、遊戯など、最後の運動会を楽しみました。

南保育所

6/11



体操 よっしゃ！



お遊戯



バトンリレー

カトリック幼稚園

6/19



パラバルーン



元気に走ろう



お遊戯

中央保育所

6/18



かけっこ



お遊戯



綱引き

各学校の手作りページ

HELLO 勇足中学校

勇足中学校教育目標

- (知) 創造性豊かで高い知性を養う
- (徳) 豊かな人間性を育てる
- (体) 強靱で粘り強い体を鍛える



入学式 ～緊張の面持ち～



新体カテスト ～自分の体力は？～



花壇整備 ～老人クラブの方と～



昼の歯磨き ～虫歯知らず？～



授業参観日 ～数学の授業です～



生徒総会 ～委員長からの説明～



運動会 ～今までの練習の成果を～



朝読書 ～本の内容は…～

瞳を輝かせて自己に挑戦し、
自己実現を図る生徒

拓道

勇足中学校は今年で開校69年目。生徒一人ひとりが、自己の道を切り拓いてほしいと定められた校訓「拓道」の下、個性を大切にするとともに、地域の方々にお世話になりながら日々の教育活動を進めています。

第20回

本別きらめきタウンフェスティバル 2016

9月3日(土)・9月4日(日) 利別川河川敷地特設会場

お笑いライブステージ
モンスターエンジン
9月4日(日) 15:45～(予定)



友好都市徳島県小松島市 立江煙火保存会
伝統吹き筒花火
9月3日(土) 19:00～



本別中学校3年生総合学習考案

豆料理コンテスト
Bean's-1 グランプリ
9月4日(日) 15:00～(予定)
※詳しくは、7月15日号かいはしでお知らせします



大人も子どもも楽しめる
フリークライミング初登場
9月3日(土) 13:00～17:00
4日(日) 10:00～17:00

今年は、6,000発。

東十勝花火大会 記念メッセージを募集

今回の東十勝花火大会(9月3日)は、昨年の4,500発を上まわる、過去最大の6,000発を打ち上げます！
実行委員会では、皆さんの思い出に残るひとときを演出したく、記念メッセージを募集します。
お誕生日、結婚記念日、プロポーズなどなど、誰かに伝えたいメッセージを、花火とともに贈りませんか。
詳しくは、下記までお問い合わせください。

主催：本別きらめきタウンフェスティバル実行委員会

問い合わせ：役場企画振興課商工観光・元気まち担当 ☎ 22-2141
※都合により、開催内容を変更する場合があります

町中が花いっぱい

町内の自治会や各種団体などが、町中にたくさんの花を植えました。きれいに彩られた花壇が、道行くドライバーや来町者、町民の皆さんの目を楽しませています。



5/31

鎌田建設工業（鎌田健治社長）の職員9人が、地域貢献活動の一環として、町道共栄緑町線通りの花壇にペチュニアやサルビアなど800株の花を植えました。



6/2

市街地婦人会（田原美枝会長）の会員18人が、十勝東北部銀河の里づくり協議会などの補助を受け、道の駅「ステラ★ほんべつ」西側花壇の整備を行い、ペコニア800株を植えました。

JA本別町女性部（井出克子部長）の部員30人が、本別大橋から本別高校までの通学路に石竹やサルビアなど750株の花を植えました。



6/6



6/22

野田組（野田仁社長）の社員7人が地域貢献活動の一環として、町体育館から歴史民俗資料館前の花壇にペコニアやサルビアなど、約800株の花を植えました。



向陽町自治会



南3丁目自治会



南4丁目自治会



共栄自治会

本別町高齢者就労センターの会員約20人が、ボランティア作業として、本別公園内のシャクナゲの芽摘み作業に汗を流しました。

6/7



新緑に囲まれ、バーベキュー交流

5/26

銀河サロン（運営委員会主催＝三井誠子委員長）花見交流会が5月26日、本別公園で行われました。初めに、三井委員長が「大いに食べて飲んで楽しんでください」とあいさつした後、約50人の参加者らは、ボランティアの協力のもと、新緑の木々に囲まれながら、バーベキューを満喫。肉や魚、うどんなどをお腹いっぱい食べた後は、カラオケで自慢の歌声を披露し、春のひとときを楽しみました。



ひまわり迷路開催に向け、種まき

5/28

8月10日から16日に開催される第11回本別ひまわり三千坪迷路（ひまわり愛好会主催＝背戸田利光代表）に向けた、種まきが5月28日、美里別東中のひまわり牧場で行われました。今年は1.5haの広大な畑に迷路が作られる予定で、まかれた種は、「春りん蔵」10kg。作業には、同会のメンバー15人が集まり、看板設置や会場の周辺整備も行われています。背戸田代表は、「皆さんのおかげで11回まで続けてこられたことを感謝しています。今年は3万5千人の来場を目標に、手作り感あふれるイベントにしていきます」と語りました。



リサイクル堆肥をお持ち帰り

5/21

本別町保健衛生組合（佐藤豊作会長）による生ゴミ堆肥の無料配布が5月21日、河川運動公園多目的広場で行われました。用意された堆肥は、家庭から出た生ごみを、銀河クリーンセンターでリサイクルされたもので、その量は約1.2トン。同広場に集まった約60人は、持参したスコップを使いながら堆肥を袋いっぱいに詰め込み、笑顔で持ち帰りました。



本別消防団が演習

5/22

本別消防団（遠藤利之団長）第1分団による消防演習が5月22日、河川運動公園芝生広場などで行われました。演習では団員23人が消防車両3台を出勤させ、同広場で機械器具の点検、小隊訓練、消防操法などを行った後、町道北3丁目通りで分列行進し、町民憩いの広場において、放水訓練を実施。団員らは力強い号令やきびきびとした動きで、日ごろの訓練の成果を披露しました。また、第3分団は仙美里元町で6月6日、第2分団は勇足元町で6月12日に、それぞれ消防演習を行いました。



菊地利昭さんが北海道管区行政評価局長表彰を受賞 **6 7**

本別町の行政相談委員である菊地利昭さん（南4丁目）が、北海道管区行政評価局長表彰を受賞し6月7日、役場を訪れ高橋正夫町長に受賞を報告しました。この表彰は、釧路行政評価分室管内の行政相談委員のうち、業績が顕著で他の委員の模範となる人に贈られるもので、菊地委員は、平成16年に総務大臣から委嘱されて以降、12年にわたり同委員として活躍。5月23日に帯広市内で開催された行政相談委員全体会議にて表彰状を受け取っており、菊地委員は、「皆さんのおかげで長く続けることができました。今後も、町民の皆さんの身近な相談員として頑張ります」と語りました。



介護人材確保支援策を検討 **6 3**

平成28年度第1回本別町健康長寿のまちづくり会議（井出壬午会長）が6月3日、総合ケアセンターで開かれました。会議では、初めに井出会長があいさつし、引き続き、町担当者が平成27年度の町福祉施策の執行状況を出席した委員16人へ報告。議事では、地域包括支援センターの平成27・28年度の活動について、報告と計画の提案があったほか、現在町で検討を進めている介護人材確保支援策の素案等について審議が行われました。



資源ゴミ回収ボランティアが活動終了 **6 6**

J A本別町女性部の資源ゴミ回収ボランティアグループ美助入（岡林節子代表）が6月6日、町図書館への本の寄贈を最後に15年間の活動を終了しました。同グループの9人は、会員の自宅やJ A倉庫、各種イベントで資源ゴミを回収し、その収入を積み立て、これまで、太陽の丘総合運動公園にリンゴの木、町社会福祉協議会や老健施設に車椅子などを寄付してきましたが、自治会での資源回収が進み、当初の目的を達したことから4月に解散。岡林代表は、「残った収益を本別町の子供たちの読書推進のため、絵本など児童用図書購入に役立ててほしい」と話し、図書館では展示用書架に特設コーナーが設けられました。



交通安全活動に長年尽力 長谷川隆司さんへ感謝状 **5 31**

本別地区交通安全協会の長谷川隆司会長への感謝状贈呈式が5月31日、本別警察署（會田英一署長）で行われました。長谷川会長は、昭和52年から本別町交通安全協会理事に、平成26年からは両協会の会長に就任し、長年にわたり、本別だけでなく、池北三町の交通安全活動に尽力。贈呈式では、會田署長から長谷川会長へ感謝状が手渡され、長谷川会長は、「この感謝状は激励であると受け止め、今後も新たな気持ちで皆さんとともに、交通事故防止に携わっていききたいと思います」と語りました。



十勝・北見地区のラグーマン220人が熱戦 **5 29**

第3回本別ラグビー祭（十勝クラシックラグーズ主催）が5月29日、太陽の丘多目的広場で開催されました。この大会は、本別高校ラグビー部OBなどが主体となって2年前から開催されており、今回は初めて小・中学生のラグビーチームも参加。試合には、十勝と北見地区の7チームから、総勢約220人のラグーマンが出場し、幼児・小学生・中学生約150人によるリーグ戦のほか、大人の部では、約70人が交流試合を行い、選手らは、チームメートや父母らの声援を受けながら、熱戦を繰り広げました。



学校周辺をきれいに **6 6・13**



鹿島組

鹿島組（鹿島豊隆社長）作業員5人が6月6日、本別中央小学校周辺

の通学路の草刈りと同校敷地内の遊具周辺の支障木枝払いの作業を行いました。中前建設（中前孝二社長）作業員6人が6月13日、愛の架け橋アーケードから同校までの通学路で草刈りと清掃を行いました。いずれも地域貢献活動の一環として、環



中前建設

介護職のやりがいを学ぶ **5 31**

介護の仕事を知るためのミニ講話（町主催）が5月31日、本別高校（佐藤渉校長）で行われ、町地域包括支援センター介護支援専門員の島田直樹さんが、同校生徒と保護者、教職員へ介護職のやりがいと魅力を紹介しました。これは、介護人材の確保を図るため、将来、介護や福祉の職業に就きたいと考えている人に、少しでも介護職を身近に感じてもらうために開かれたもの。参加した12人の生徒は、真剣な表情で講話に耳を傾けました。



自分たちがやってみたい お店屋さんを出店 6 16

勇足小学校（吉藤清孝校長、53人）「エトセトラマーケット」が6月16日、同校で行われました。これは、全校児童が4つの縦割り班に分かれ、自分たちがやってみたいお店屋さんを手作りで披露し、楽しむもの。スライムづくりや宝探しなど、各班工夫を凝らした催しがオープンすると、児童の保護者などが日ごろの学習成果に理解を深めました。勇足保育所年長児の親子が学校から招待されており、参加した同保育所の上田弘法くんは、「魚釣りが楽しかった」、母親の法子さんは、「来年の入学に向けて学校の様子を知ることができる良い取り組み」と話し、親子で笑顔のひとつときを過ごしました。



個々に合った 学習支援体制を 6 15

本別高校（佐藤渉校長、141人）特別支援教育講演会が6月15日、同校で開かれ、北海道教育大学釧路校の二宮信一教授が、「高校生が知っておきたい共生社会」と題して講演しました。これは、同校が平成27年度から文部科学省より指定を受けているモデル事業の一環として実施されたもので、二宮教授は、生徒および一般来場者10人へ、数字や文字を見るまたは聞いて書き留める問題を出し、一人ひとり脳の記憶方法が違うことを説明。個々の脳に得意、不得意があり、自分に合った学習方法を見つけることが重要であると語り、「それぞれに合った学習支援があれば、みんな平等に学ぶことができる」と述べ、一人も仲間はずれにしない、インクルーシブ教育の考え方を力説しました。



ママは運動、 赤ちゃんはぐっすり 6 13

家庭教育支援事業「なかよし」によるママとベビーのリズムダンスが6月13日、健康管理センターで行われました。このリズムダンスは、ママが赤ちゃんを抱っこしながら音楽に合わせてステップを踏むことで、赤ちゃんはゆらゆらと心地よいリズムが感じられるためリラックスし、ママは運動不足解消ができるもの。参加した7組14人の親子は、インストラクターの小林永枝さんとともに、軽快な音楽に合わせてダンスを楽しみ、多くの赤ちゃんはぐっすりと眠りにつきました。



本別公園周辺の 文学碑8か所を散策 6 11

今年度第1回のほんべつ学春のまなび「本別の文学碑めぐりハイキング」が6月11日、本別公園周辺で行われました。この講座は、本別の魅力をもっと知り、再発見するふるさと学習で、平成26年度から実施されています。今回は同公園周辺に古くからある、本別ゆかりの歌人の句碑や歌碑を巡るため、10人の参加者とガイドを務める森と川の舎の会員6人が、神居山や諏訪山の散策と登山に挑戦。参加者らは、山道の急斜面に苦戦する場面もありましたが、8か所の句碑、歌碑、石像を実際に見学し、本別の文芸と歴史にふれました。



つどい、ふれあい、 まなびあい 6 15

義経仙美里教室が6月15日、仙美里地区公民館で開催され、本別町スポーツ推進委員の大西光夫さんと我妻勇次さんを講師に、10人の参加者が日ごろ使っていない筋肉を動かしたり関節を緩める運動や、指を使った脳トレなどに挑戦しました。同教室は、おおむね60歳以上の町民を対象に、「つどい、ふれあい、まなびあい」をテーマとして、年間8回のプログラムを通して健康に関する講座や軽スポーツ、バス旅行などを楽しむもので、本別、勇足地区と合わせて町内3か所で開催されています。



袋いっぱい ゴミ拾い 6 11

勇足元町地区の子ども会（畠山七海会長）によるゴミ拾いボランティアが6月11日、同地区で行われました。参加した同会会員の小学生8人と保護者らは、勇足小学校を出発し、郵便局や勇足地区公民館周辺を歩き、空き地や歩道沿いに落ちていたペットボトルやタバコの吸い殻などを一つひとつ丁寧に拾い集めました。



町税における 不適切な処理について

町民の皆さまの、大切な税金を扱う立場の職員による、不適切な事務処理が行われたこと、並びに、皆さまへの報告が遅れたことにつきましては、本別町に対する信頼を損なうものであり、町政を預かる最高責任者として極めて重く受け止めております。多くの皆さまに御心配と御迷惑をお掛けしたことに對し、深くお詫び申し上げます。

不適切な事務処理の1件目につきましては、平成23年3月に徴収に訪問した際にお預かりした住民税12万3000円について、2件目につきましては、別の職員が平成27年4月から7月にかけて徴収に訪問するなどの際にお預かりした住民税など、15件で38万7478円について、その処理を怠るなど、さまざまな事務処理をしていたものであります。

このような不適切な事務処理をしておりました2人の職員に對しましては、それぞれ懲戒処分を下し、その後、2人とも自主退職をしております。

このようなことが二度と起きないよう、職員に対する徹底した指導を行い、町民の皆さまの信頼を回復すべく全力を挙げて取り組んでまいりますので、今後とも町民の皆さまのご指導をお願いいたします。

本別町長 高橋 正夫

よろしくお願ひします!

今年度4月～6月に新採用となった職員9人を紹介します。
町民の皆さんのお役に立てるよう頑張ります。



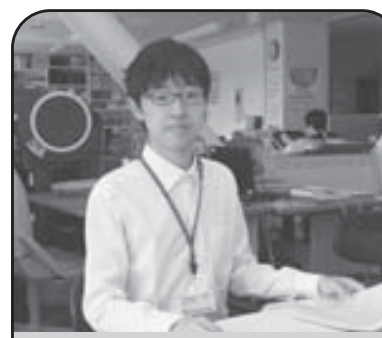
国民健康保険病院
病棟担当 看護師 **あづま 久美子**

6月に採用され、13年ぶりに本別町に帰ってきました。生まれ育った町で看護師として働くことが夢だったので、実現できてうれしいです。笑顔だけが取りえですが、町民の皆さまのために一生懸命頑張りますので、よろしくお願ひします。
本別町出身、31歳



農林課
林務・耕地整備担当 主事補 **やま だ ゆう が 山田 優雅**

主に森林関係や有害鳥獣駆除関係の仕事に携わっています。趣味は釣り、スノーボード、車です。中学校は野球部、高校では3道部に所属していました。仕事を早く覚え、町のために頑張りますので、これからよろしくお願ひします。
浦幌町出身、18歳



建設水道課
管理担当 主事補 **にしむら こう き 西村 航貴**

職場では道路占用や公園遊具管理などの仕事をしています。趣味は電車(撮る・乗る)で、特技は、中学で始めた卓球です。今後は卓球協会の方々と一緒に活動ができればと思います。町民の皆さん、よろしくお願ひします。
本別町出身、18歳



住民課
税務担当 主事 **ほり たち ゆう すけ 堀田 雄介**

主に住民税を担当し、法律など勉強中です。趣味は体を動かすことで、バスケットボールや、実家で愛犬(ビーグル)と散歩をしています。町民の皆さまのお役に立てるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願ひします。
帯広市出身、24歳



国民健康保険病院
病棟担当 看護師 **なかね なお こ 中鉢 直子**

子育てのため、長年、仕事から離れていましたが、この度、復職させていただきました。町民の皆さまに、安全・安心な看護が提供できるよう努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。
釧路市出身、43歳



学校給食共同調理場
学校給食担当 主任 **やま かわ つかさ 山川 つかさ**

調理師学校卒業後、札幌のホテルや給食請負会社勤務で給食管理を勉強させてもらいました。給食を提供する一人でも多くの子供たちに美味しく食べてもらえるよう、また地産地消を通して給食で町おこしができるように頑張ります。
本別町出身、34歳



企画振興課
企画・生涯学習・行政改革担当 主事 **しょう じゆ さとる 松寿 智**

企画・生涯学習・行政改革を担当し、銀河線代替バスや循環バス、総合計画策定に関わる仕事をしています。仕事柄、町民の皆さんと直接関わる機会は少ないですが、自治会活動等を通じて交流ができればと思っています。
足寄町出身、21歳



振興課 主査 **ため だ ひろ しげ 留田 博州**

十勝管内の地域振興や広域連携のための基金事業を担当しています。移住希望者へのPRや「十勝のしごとフットコンテスト」など、経験のない業務ばかりですが、新しいスキルや町民同士の横の連携など、本別町に持ち帰るよう奮闘しています。
43歳

十勝圏複合事務組合と相互職員派遣研修

十勝圏複合事務組合は、行政サービスの向上のため、十勝19市町村が共同で処理する事務を担当する特別地方公共団体です。現在は帯広高等看護学院や十勝教育研修センターの運営のほか、十勝市町村税滞納整理機構での共同処理を行っています。4月1日付け人事異動により、相互職員派遣研修として、本別町から留田博州主査が同事務組合へ、帯広市から松寿智主事が本別町へ派遣され、平成28～29年度の任期で研修を行っています。



建設水道課
土木担当 技師補 **あお きの れい や 青木 玲也**

主に土木の仕事を担当しています。一日も早く仕事を覚え、一人前の社会人になりたいです。町民の皆さんとコミュニケーションを取りつつ、道路工事などで貢献できるように頑張ります。趣味はバスケットボールと野球です。
帯広市出身、18歳



企画振興課
商工観光・元氣まち担当 主事補 **たけ した はる な 竹下 春菜**

観光施設の管理や、つつじ祭りなどのイベント事業を担当しています。高校まで本別町で過ごし、中高生時代のボランティア活動を通じて、大好きな本別町で働きたいと思いました。本別町観光を盛り上げていけるよう頑張ります。
本別町出身、20歳



総合ケアセンター
高齢者福祉担当 主事 **いま い あや か 今井 綾香**

本別生まれ本別育ち、数字が大好きなリケジョ(理系女子)です。本別レッズで野球を始め、現在はバツトマンズに所属し朝野球に励んでいる野球女子です。「一つひとつ丁寧な仕事」をモットーに笑顔と感謝を忘れず頑張ります!!
本別町出身、22歳

未来に輝く 子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。
お父さん、お母さんのたくさんの愛に包まれてすくすく元気に育ってね！



北4丁目
野原帆 (友美ママ)
高 (友美ママ)



栄町
若林奏 (友香ママ)
佑 (友香ママ)

※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

かぶと池に、新しいボート 6/23

本別公園かぶと池に6月23日、新しい足こぎボートが入りました！
ご家族、ご友人同士でぜひ、お楽しみください。

- ▶利用期間 10月10日までの土・日・月曜日・祝日
※7月2日から8月31日までは毎日利用できます
- ▶利用料金 200円 (30分)
- ▶定員 最大3人 (大人2人・子ども1人まで可。大人3人は不可)
- ▶問い合わせ 本別公園義経の館 ☎ 22-4441



ご寄付ありがとうございます 平成28年5月16日から6月15日

次の通りご寄付をいただきました。
紙上を借りて厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- ★本別町農業振興基金
金10,000,000円
……本別町農業協同組合
代表理事組合長 田中敏行
- ★本別町医療保健福祉施設等整備基金
金100,000円 ……勇足東3 石上孝夫
金50,000円 ……匿名
- ★老人ホーム指定
タオル61枚 ……本別町赤十字奉仕団 委員長 西出好子
タオル50枚 ……本別町市街地婦人会 代表 田原美枝
- ★本別消防署指定
ウエス100枚 ……本別町市街地婦人会 代表 田原美枝



- ★中央公民館指定
雑巾30枚 ……本別町市街地婦人会 代表 田原美枝
 - ★仙美里へき地保育所指定
牛乳贈答券10,000円
……拓農酪農振興会 会長 戸来敏典
 - ★図書館図書購入費指定
金150,000円 ……帯広信用金庫 理事長 増田正二
- 個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付
- | | |
|----------------------|------------|
| 金60,000円 ……神奈川県 新津 徹 | 千葉県 山下恵理子 |
| 金20,000円 ……愛知県 青柳政裕 | 埼玉県 石田 崇 |
| 各金10,000円 | 神奈川県 作間高明 |
| ……富山県 五嶋美代子 | 埼玉県 秋山佐智子 |
| 埼玉県 生方 勉 | 千葉県 尾山正樹 |
| 福井県 丸繁 清正 | 東京都 上野大輔 |
| 愛知県 田中安信 | 神奈川県 中山雅康 |
| 東京都 増山厚志 | 千葉県 小田島正博 |
| 京都府 新木 隆 | ……匿名 54人 |
| 静岡県 高木晴代 | 計金580,000円 |
| 大分県 小田孝明 | |

みんなの健康

383

防ズー！守ろー！ 高齢者の脱水



本別町国民健康保険病院
看護師長 山岸広美

私たちが体の半分以上を占める水分。体温を調節したり、栄養素や酸素を運んだり、老廃物を排泄するなど、生命を維持する大事な役割があります。高齢者の場合、脱水になりやすいので注意が必要です。脱水で怖いのは、血液が濃くなって固まりやすくなること。脱水になると脳梗塞や心筋梗塞などを発症する危険が高くなります。軽度・中等度の脱水（熱中症を含む）が起こったときに、すぐに役立つのが経口補水療法。塩分と糖分をバランスよく配合した経口補水液を飲ませ、失われた水分や電解質を速やかに補給するというシンプルなお治療法です。

脱水かどうかの簡単なチェック方法

- 脇の下が乾いている
- 口の中が乾いている
- 手の甲の皮膚を持ち上げて放したときシワができたままになっている

このようなときは、脱水になっている可能性があります。

経口補水液の作り方

- ①水1リットル（水700ccと無塩トマトジュース300ccとかなおよい）
- ②塩3g（小さじ1/2杯）
- ③砂糖40g（大さじ4と1/2杯）

①②③をかき混ぜます。

*市販の経口補水液は、薬局などで購入できます。

水だけの補給では、カラダの水が薄まってしまい、更に電解質が失われる悪循環を招きます。

足寄町

全国一斉国立公園清掃デー
クリーン阿寒

オンネトー地区清掃活動

阿寒国立公園の「クリーン阿寒」事業に参加して、オンネトー地区の清掃を行います。清掃活動をしながらか自然観察や森林浴を楽しみませんか。



□とき 8月7日(日)

□出発 午前8時

足寄町民センター

※町有バスで移動します。事前の申し込みは不要です

□内容 清掃活動、自然観察、森林浴

□参加料 無料

□詳細 あしよろ観光協会事務局
☎ 2516131

陸別町

第8回ふるさと銀河線
りくべつ鉄道まつり

□とき 7月23日(土)

□ところ 24日(日)

23日 緑町サッカー場
24日 りくべつ鉄道構内、駅前多目的広場

□内容 23日(土) 午後8時〜 花火大会

24日(日) 正午〜 ミニライブ(いとたい) 午後2時〜 マジックショー (アガック&ステファニー) 午後2時40分〜 お笑いステージショー(天津、バイク川崎バイク、しろこび) 午後3時15分〜 大抽選会、もちまき

□詳細 陸別町観光協会事務局 (陸別町役場産業振興課内)
☎ 2712141 内線135

本のある暮らし 184

「知る」ことから始めよう

～10代から考えてほしい大切なこと～

疑問を持つとう

「平和って何だろう?」「なぜ、戦争が起こるのだろう?」という疑問に、はつきりと分かりやすく答えられる人は、どれだけいるでしょうか。
この難しい問いに多くの人が向き合ってきた証しとして、本があります。文、絵、写真、数字などによって表現された、「伝えたい平和への思い」が、図書館の棚には並んでいます。見聞きした情報も、読むことでより確かなものになり、未経験のことも想像力で広く深く考えられるようになるのです。



「知る」から「考える」「伝える」へ

まずは身近な郷土の歴史や現在の状況を知る。そして、そこから考えてみませんか。情報のないところから、考えは生まれません。考えを持たなければ、何も伝えられないのです。今年6月から選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、全国で約240万人の新しい有権者が誕生します。今、若い人たちが本を読み、自分たちの声が過去と未来をつないでいる、ふるさとかから世界へ拡がっていく、と感じてくれたら、それが平和への第一歩なのかもしれません。

戸籍のまど

お誕生

5月後半から6月前半の届出分

- 塩井 一平くん 浩平さん 5/12 緑町
- 丸山 斗悟くん 勇太さん 5/19 勇足西1
- 丸山 大士くん 勇太さん 5/19 勇足西1
- 宮川 詩凜ちゃん 智規さん 6/1 北6丁目
- 室矢 透子ちゃん 武則さん 6/2 北4丁目

おくやみ

- 田野 佳子さん 75歳 5/17 南2丁目
- 岡崎 誠さん 87歳 5/20 北5丁目
- 古川 三雄さん 89歳 5/23 朝日町
- 沢口 千ヨさん 82歳 5/26 向陽町
- 向井 要次郎さん 89歳 6/8 美里別下1

わたしたちのまち

前月比
人口 **7,488人(+9)**
男 **3,683人(+3)**
女 **3,805人(+6)**
世帯数 **3,738戸(+7)**
〔5月末日住民基本台帳〕

お問い合わせ先
本別町図書館
(愛称:ぶつくる一丸)
本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112